

開催報告： 石川県支部 第2回 かがやきセミナー
テーマ「多職種とつながる～受け手から学ぼう～」

開会の挨拶 多賀 千之 (石川県支部世話人代表)



医師事務作業補助者の目的は、呼称の通り、医師の事務作業の補助をする事が目的ではなく、良質な医療を継続的に提供するために新設されたことが前提である。そのためには、実務者各自が専門性を高めると同時に、効率的な業務運用・適切な人員配置や役割分担が重要といった観点より、今回は「配置やローテーション」にスポットをあて、後半のパネルディスカッションで、多方面から考える機会としたい。と述べられ、開会となった。

『医療倫理について～その歴史と重要性』

講師： 上田 博 (芳珠記念病院 名誉院長)



第1回かがやきセミナーで、上田先生よりご講演を賜り、医療における倫理・個人情報について知識を深めることが出来た。私達医師事務作業補助者も医療職の1員として、患者様の大量の個人情報を携わりながら多職種と業務を遂行している。今後も常に守秘義務を遵守するために、様々な権利・義務・倫理について重要性を再確認すると同時に、人としてのマナーやモラルを見つめなおす機会となった。

『保険会社の視点から～保険会社の書類について理解をふかめよう』

講師： 塚田 直樹 (損壊保険ジャパン日本興亜株式会社 北陸保険サービス部
金沢火災新種保険金サービス課副長)



普段、業務として代行作成している損害保険の診断書について、どのような場合に保険金が支払われ、保険金を支払う保険会社側が重要視している箇所、またその記載の必要性を丁寧にご指導頂き、実務者の口々より今後の業務に活用できるとの声があがった。

『明日の業務につながる薬剤に関するはなし』～平成28年度診療報酬改定をふまえて～

講師： 熊野 英一 (たんぽぽ薬局株式会社 石川県エリアマネージャー)



第1回のかがやきセミナーにてご講演を賜ったが、今回は、今年度の診療報酬改定の注目点である「かかりつけ薬剤師」「湿布の枚数制限」「残薬調整」「後発医薬品への変更」「分割調剤」のキーワードから、医療費の削減・見直しに対する国の政策を理解する事につながった。

活動報告 矢口 智子 (NPO 法人日本医師事務作業補助研究会 理事長)

H27年度の事業実績、H28年度の事業計画、研究会の役員の変更等を矢口理事長より報告された。その他、職業団体の確立のために、まず名称を「臨床支援士」と統一する事と、キャリアパスの作成や業務整理を行っていくとの方針を述べられた。

また、次回の全国大会について、H29年11月25日 名古屋にて開催予定と報告された。

パネルディスカッション『医師事務作業補助者の配置とローテーションについて考える』

座 長 多賀 千之 (石川県支部世話人代表)

『少数での取り組み』

パネリスト 若栗 光恵 (浅ノ川総合病院)

外来診療補助を行っている医師事務作業補助者が7名という少数での総合病院における配置や交代体制の取り組みと業務拡大に対しての配置の問題点からの工夫について発表された。

『チーム体制を目指して』

パネリスト 吉田 優子 (やわたメディカルセンター)

外来診療補助業務をチーム体制で担当するにあたり、医師別のマニュアル作成をして、交代要員を育成するという取り組みを発表された。また、専門病院を見学して、業務拡大を行ったとの説明があった。

『ユニバーサル外来』

パネリスト 鷲尾 留美 (恵寿総合病院)

「ユニバーサル外来」という他の病院にはない診察室の活用法と、そのユニバーサ

ル外来の業務マニュアルの作成や業務達成一覧を作成することにより、各実務者のスキルの把握を行い配置の参考としていると発表された。

『当院における配置とローテーション』

パネリスト 矢口 智子 (金沢脳神経外科病院)

実務者の業務量を平等にするために、「担当医制」のローテーションに変えた経緯と利点について発表された。また、有効的な配置を考える資料として、「院内キャリアパス」の作成の必要性について発表された。

閉会の挨拶 上田 博 (石川県支部顧問)

今回、管理者と実務者が一体となったセミナーの初の試みではあったが、双方にとって実りある会になった。現在、研究会の会員数がまだまだ少ない状態であるが、今後も、いろいろ試行を変えて、セミナー等を企画していく予定なので、皆さんの口添えで会員を増やしていきたい。と述べられ、盛会に終わった。